

## 地域医療の現状学ぶ 医薬大生が地域医療体験

「東北医科薬科大学へき地・被災地医療体験学習」は7月20、21の両日、登米市民病院で実施され、同大学2年生5人が、地域医療の現状、課題を学びました。

体験学習は、総合診療医として従事する地域医療の理解を目的に実施。学生たちは、オリエンテーションを受けた後、登米市民病院医師などの講義を受講、外来見学や病棟実習などを体験しました。体験学習リーダーを務めた岡島なるみさんは「私たちは、大学卒業後10年間、県内の病院に勤務します。地域医療は、患者との距離感が大切だと実感しました」と心に寄り添う重要性を感じていました。



病棟実習では、患者の食事介助などを体験。学生たちは、コミュニケーションを取るのに苦労していました。

## 復興に思いを込めて 東北・宮城県太鼓フェス

「第26回東北太鼓フェスティバル・20周年記念宮城県太鼓フェスティバル」(東北太鼓連合主催)は7月9日、登米祝祭劇場で開かれ、勇壮な和太鼓の演奏が観客を魅了しました。

東北太鼓フェスティバルには、東北6県から15団体が参加し、復興への思いを込めて演奏。続いて開かれた県太鼓フェスティバルには、県内から16団体が参加しました。心に響く演奏に、会場から大きな拍手が送られました。樋口智也さん＝米山町の場合＝は「演奏は団体ごとに特徴があり、感動しました。地元の太鼓も他県に引けをとらないですね」と感心していました。



和太鼓は、音と大きな動きで、観客の「耳」だけではなく「目」も楽しませてくれます。

## すき込み処理に向け 汚染牧草・堆肥を実証実験

東京電力福島第1原発事故による放射性物質で汚染された牧草・堆肥の土壌還元実証実験を進める本市は7月25日、市内市有地の実験場に生えた牧草の1番草を刈り取りました。

5月に、400ベクレル以下の汚染牧草・堆肥をすき込んだ実験区画と、牧草・堆肥を入れない対照区画にそれぞれ種をまき牧草を栽培。同日は、草刈り機を使って、約1畝に伸びた牧草を刈り取りました。刈り取った牧草は、乾燥をさせ測定機関に送り、放射線量を測定します。測定結果が分かり次第、市ホームページで公表します。



牧草を刈り取る作業員。安全性が確認されれば、市内で保管している汚染牧草は、土壌還元で処理していく予定です。

## 秘仏開帳でにぎわう 大嶽山興福寺で秘仏開帳

大嶽山興福寺で7月15～17の3日間、33年ぶりに秘仏が開帳され、約1万2千人の来場者が訪れました。

秘仏は十一面観世音菩薩。菩薩の脇侍として、不動明王、毘沙門天王と共に仏堂の中に祭られています。期間中、奥州三十三観音の「お砂踏み」が実施されました。これは、札所の砂を踏めば、実際にお遍路をしたのと同じご利益があるとされる風習。今回は、史上初めて奥州三十三観音の砂が集められました。千葉トヨ子さん＝中田町柴六＝は「お砂踏みのお陰で、33カ所回ることができました。気持ちになった気がします」とご利益を感じていました。



多くの来場者でにぎわう興福寺。関連行事として、小中学生の神楽や太鼓演奏、地域の民俗芸能などが披露されました。

## マイルアーで大物を 石森でルアー手作り教室

「ルアーづくりワークショップ」は7月29日、旧石森幼稚園園舎で開かれ、市内外から参加した26人の小学生がオリジナルルアー作りに挑戦しました。

ワークショップは、現在石ノ森章太郎ふるさと記念館で開かれている「第56回特別企画展釣りキチ三平夏の学校あそびがまなび展」の一環として開催。参加者は、手作りルアーオライノ代表の村岡博之さんに助言、指導を求めながら、思い思いのルアーを作りました。阿部龍之介君＝中田町表＝は「ルアーづくりは初めてで、色付けが難しかったです。早く作ったルアーでブラックバスを釣りたいです」と目を輝かせていました。



ルアーは手作りキットを使用。村岡さんが、針付けなどの最終仕上げをし、後日参加者に送り届けられます。

## 被災時の対応に感謝 御船町長らが本市を訪問

昨年4月の熊本地震で被災した熊本県御船町の藤木正幸町長一行は7月19日、登米市役所迫庁舎を訪れ、本市の支援に対してお礼を述べました。

御船町は、熊本地震で住宅444世帯が全壊するなど、大きな被害を受けました。このような状況から、本市は昨年5～6月、職員10人を派遣。施設の被災調査、罹災証明の発行や各種復旧計画の策定などを支援しました。藤木町長は「被災後、前に進めたのは、登米市をはじめとする東北の支援のお陰です」と謝意を示しました。熊谷盛廣市長は「まだ大変だと思いますが、頑張ってください」とエールを送りました。



藤木町長らは「なんとか復興のスタートラインに付きまして。これからが本番です」と決意を新たにしていました。